

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870700147		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム 銀河		
所在地	愛媛県大洲市徳森1477 (電話) 0893-25-3785		
管理者	富永 喜代香		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 6 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.5 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	240 円	昼食 380 円
	夕食	380 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	2 名
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 64 歳	最高 101 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護保険制度の施行に合わせて開設された、グループホームの先駆けともいえるホームである。運営法人の自社ビルの5階と3階に1ユニットずつあり、共同空間や居室の配置は異なった設えになっている。運営者の経営する診療所が地域での医療活動の中でホームの必要性を感じて開設されたために、医療との連携がしっかりしており、利用者や家族にとって安心感が高い。ホームは利用者に対してゆったりとした生活を提供することを基本としており、長期利用者が多い。職員とは深い信頼関係が結ばれているため、介護度が高くなった利用者からも明るい笑顔を見ることが出来る。ターミナルケアを実践している職員の話には介護職としての自信がうかがえる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

地域とのつきあいは、運営推進会議を上手く利用し、地区長や民生委員を通して少しずつ深めていっている段階である。同業者との交流についても管理者レベルの段階ではあるが、相互訪問などの活動が開始されている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価も回数を重ね5回目のため、管理者や職員は評価の意義をよく理解している。評価項目を通して自らのケアを振り返る取り組みがなされており、有意義に活用している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

議題は防災訓練や地区行事など催し物のことや利用者の生活の紹介など多岐に亘っており、運営推進会議を地域との交流を深める場としてうまく活用している。会議には他ホームの管理者も参加しており、ホームの運営に専門的な視点での意見を収集している。これは利用者に対するサービスの向上に努めていることであり、運営推進会議が有用なものになっていることがうかがえる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族等の苦情を受け付ける窓口や意見箱などを設置しているが、管理者やホーム長も積極的に声をかけ、意見や苦情が言いやすい状態になるように努めている。利用者の生活の質向上のためには家族の協力が不可欠との認識があり、家族への報告も一方通行にならないよう、双方向の話し合いに努めている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

近隣には住宅地が少ない立地であるため、地域住民との日常的なつきあいは難しいが、地区会長や民生委員を通して自治会活動への参加をはじめている。地区清掃への参加など、職員主導で利用者が地域との付き合いを始めるための土壌らしを行っている段階である。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム銀河

(ユニット名)

5階

記入者(管理者)

氏名

富永喜代香

評価完了日

平成 20 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「人それぞれが残存能力を生かして地域とのふれあいを大切にしながら自分らしく生活が送れるよう支えていく」と言う理念のもと地域交流に取り組むことを職員と話し合っている。 (外部評価) 地域密着型サービスに移行した際に、理念の基本のひとつに「地域」を置いている。地域という言葉には、利用者が地域住民として日常生活を送れるように支援する気持ちが込められており、ホーム全体で考えた理念となっている。		「明るく楽しいのんびりとした家庭生活を送る」をフロアーの理念としてあげて利用者を支えていくようにしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者にとって何が大切でどうすれば良いかを話し合い地域との交流を考えながら職員全員で共有し、取り組んでいる。 (外部評価) 理念をユニット毎に概念化した言葉を掲げている。「今を生きる、一人ひとりを大切に」「明るく楽しくのんびりとした家庭生活」など、利用者の個性や状態に合わせた目標を立て、理念の実践に取り組んでいる。		カンファレンスや日々の業務の中で話し合いをしている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の中で報告したり、取り組みを新聞に掲載して回覧している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時には気軽に挨拶できるようにしている。又、利用者と一緒に回覧板を持って行き交流出来るようにしている。	※	日常的な付き合いが少ないので今後増やせるように取り組んで行きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭りや草刈などの行事に参加して交流している。学校の生徒さん保育園児やの訪問があり交流会をおこなっている。 (外部評価) ホームの近隣には住宅地が少ないため、地域住民との日常的なつきあいは難しいが、地区会長や民生委員を通して自治会活動への参加をはじめている。地区清掃への参加など、職員主導で利用者が地域との付き合いを始めるための土壌ならしを行っている段階であり、日常的なつきあいがあるとまでは言えない。	※	管理者や職員の働きかけにより、利用者と地域が結びつき始めている段階であるので、ホームにある専門的知識を地域へ提供するなど、地域に貢献する時間を多くする必要がある。そのためには管理者を専任とするなど、地域に向く時間を作ることが望まれる。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 会社でヘルパー養成講座を開催しヘルパー2級の資格取得が出来るように取り組んでいる。職員として職に就けるよう人材育成に貢献している。	※	職員が講師になり地域の方々に認知症についての勉強会が出来るようにしていきたい。新聞に役に立つ物を掲載している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の意義や目的を理解し職員で話し合いや見直しをして改善出来るようにしている。 (外部評価) ホームの評価を行うのは今回で5回目で、管理者も職員も評価の実施には回数を重ねており、意義をよく理解している。管理者に聞いても職員に聞いても異口同音でその意義を説明でき、ホーム全体で取り組んでいることがうかがえる。		日頃から点検を行い改善に向けて取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で説明、報告を行い意見や要望を取り入れてより良いサービスの向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議を地域との交流を深める場としてうまく活用している。地区長や民生委員の出席を促し、地域に開かれたホームづくりに努めている。また、市担当者の参加も毎回あり、客観的な視野を利用者のサービスに取り入れることにも取り組んでいる。		地元消防団視察が実現できた。ホーム内の点検や話し合いの場を持ち、交流や情報交換が出来た。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域密着サービスとして、サービス担当者会を年3～4回開催して頂き情報交換や制度等の説明を受け質の向上に努めている。 (外部評価) 市主催のサービス担当者会議が定期的に開かれており、運営推進会議以外でも情報交換が行われている。また、介護相談員の受け入れも行われており、行政と共にサービスの向上に努めている。		介護相談委員の受け入れも行っており利用者様の相談に応じて頂いている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に積極的に参加し学ぶ機会を持っている。又、勉強会を開催して周知するようにしている。	※	現在、成年後見人制度を利用している方もおられる今後も関係者と話し合いをして活用していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされないよう注意を払い職員で話し合いをしている。勉強会を開いて虐待の防止を徹底に努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分に説明し、同意を得ている。事前に見学や訪問して頂き不安を無くし、理解や納得も図るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談委員の訪問があり相談出来る体制となっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 新聞に掲載したり、記録をまとめた物や、出納帳のコピーと一緒に郵送している。又、緊急時にはその都度報告している。 (外部評価) 管理者は、家族への報告は来訪時に行うよう心がけているが、来訪の少ない家族等には手紙やホーム便りを定期的に送付している。家族等に電話連絡する際も、できるだけ利用者の日常を伝えるようにしており、丁寧な報告がなされている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置をして家族の声を大切にしている。訪問時に話を聞いたりして意見等を職員と周知して反映に努めている。 (外部評価) 家族等の苦情を受け付ける窓口や意見箱などを設置しており、また管理者やホーム長も積極的に声をかけ、意見等を言いやすいよう配慮している。利用者の生活の質向上には家族の協力が不可欠との認識があり、家族等からの意見を傾聴することに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のホーム長会議や業務カンファレンスの内容を報告するようにして、意見や提案を聞く環境を作っている。報告・連絡・相談が出来るように心がけている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 緊急時や状況にあわせて対応出来るようにお互い話し合い調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や退職がある場合には利用者や家族に不安を与えないように対応している。 (外部評価) 同法人は複数のホームを運営しており、ホーム間での職員異動がある。職員の状況によりユニット間での異動もあるので、離職者は少ないが職員の入れ替わりが多い状況にある。	※	ホーム運営上の事情等もあり異動をなくすことは難しいと思われるが、法人内のホーム毎に職員の雇用を固定することで利用者との馴染みの関係が構築され、落ち着いた生活の提供が可能と思われるので、検討を望みたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 利用者に応じた勉強会や職員のスキル向上に向けて社内での勉強会に参加したり、外部研修会や毎月勉強会を開いて知識を高めている。 (外部評価) 利用者へのサービスの向上には職員のスキルアップは不可欠と捉え、法人内での研修が定期的に行われ、また外部研修にも参加を促している。常勤職員と非常勤職員とで研修受講に差があり、職員全体の質の向上に努めるとまでは言えない。	※	研修会の研修情報を職員に提供し、興味ある研修について参加出来るように配慮している。 利用者にとっては職員の質がそのまま生活の質にも関係するので、常勤・非常勤等の勤務体制に関係なく全体の質の向上のための研修受講の仕組みを整えることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他施設との交流や情報交換を行いお互いに行っている。担当者会議では相互訪問が出来るように話し合った。	※	今年度より、毎月各事業所の訪問を計画して実施して情報交換や、不安、悩みなど話し合いより良いサービスの向上に繋げている。今後も続けたい。
			(外部評価) 研修会で知り合った他のホームの管理者と互いの運営推進会議に出席し合うなどして意見交換を行い、また地域の他施設と相互訪問も行われている。ただ、管理者レベルの交流が中心となっており、ネットワークができているとまでは言えない。	※	他施設の相互訪問は本年度から始まった事業であるため、管理者レベルの交流に留まっているが、今後は職員の相互訪問・研修なども企画し、ホーム全体の質が向上できるような取り組みを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社で忘年会を開いてストレスの軽減になっている。食事を開いて職員の日頃の思いなども大切にしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年始に1年間の目標をあげ向上心を持って働けるようにしている。研修会に自主的に参加出来るよう配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人が安心して頂ける様に話を傾聴し意向を十分に受け止め不安を無くすようにしている。又、日頃から声の掛け方や声のト音に留意するよう職員に話し、信頼関係を築くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の不安や困っている事、意向を聞いてここでの生活が安心して送れるよう話し合い信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 情報を基に出来る事、出来ない事、必要な事を見極めて思いを受け止め対応、相談に応じている。	※	他の事業所のサービスのサービスにつなげる対応をしていきたい
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前に本人・家族様に訪問して見学して頂き安心して生活出来るように環境作りをしている。家族様の協力により面会して頂く等環境に慣れていただけるようにしている。 (外部評価) 管理者は、利用者がホームに馴染むためには、日常生活の延長が重要と考えており、生活歴や生活状況等の必要な情報収集のために自宅や施設、病院等に出向き、確認を行っている。家族や関係者の意見も集約し、職員間で共通できるように取り組み、利用者が早くホッとできる生活を提供できるような支援に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 得意な事や出来る事を一緒にする事で楽しみながら関係を築いている。一緒にする事で、利用者様から学ぶことも多く支え合うことの大切さを職員間でも話し合っている。 (外部評価) 職員から聞いた、「表現が厳しくなっている利用者でも、職員の関わり如何で表情が変わる。利用者が笑顔になると、自分が認めてもらっていることを実感し、仕事にやりがいを感じる」との話には、利用者職員とが相互に支えあう関係が築かれていることがうかがえる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の様子や状態を報告・相談して家族様からの情報や意向を受け止めて信頼関係に努めている。	※	今後も面会の回数を増やして頂ける様なアプローチや連携を密にして一緒に支えて行く関係を作りたい

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 誕生日会を開催する旨を家族様に伝え一緒にお祝いするなど訪問する機会を増やしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 正月やお盆など外出、外泊をする事で知人や近所の方と交流出来るように家族様に声掛けをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格を把握し利用者の中に入りより良い関係が作れるようにしている。職員も利用者と関わる時間が増やせるよう業務の見直しを行い関係作りをした。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 死亡により契約が終了することがあり継続的な関わりが出来ていない	※	今後はサービスが終了しても継続的な関わりが出来るような関係を築いていけるよう話し合いたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の様子や会話の中から本人の意向や思いを記録に落としとしてカンファレンスで活用しプランに取り込んでいる。困難な場合も表情などから読みとり代弁して検討している。 (外部評価) 利用者の自己決定力が低下した場合は、生活歴等を活用して思いや意向を推し量っている。管理者や職員は長時間一緒に生活しているため生活歴は把握しているが、把握した情報については初回のアセスメント時以外の記録が少なく、職員の記憶が中心となっている。	※	ケア会議や引き継ぎ時には聞き取った生活歴の話し合いを行い、職員間での共有化は図られているが、利用者のケアの質を高めるには重要な財産となり、また記録を読み返すことで利用者の新たな側面を発見することも期待できるため、記録を蓄積していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の何気ない会話や失礼のないよう話をお聞きし情報収集をしている。家族様からも情報を頂きケアにつなげている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 出来る事、出来ない事を把握しその日の体調に合わせて、支援している。記録に落として把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回ケアカンファレンスを行い意見交換、提案をして介護計画を立案して職員で共有している。家族の意見や意向も取り入れている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が介護計画の素案を計画作成担当者と共に作り、職員全員参加のケア会議でまとめている。家族等や関係者にも相談しており、多角的な視点での計画になるよう取り組んでいる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) カンファレンスや期間にあわせて計画の見直しをしている。 その都度変化に応じて家族の意見や要望も取り入れ作成している。 (外部評価) 介護計画の見直しは二段階になっており、大きな区切りとして介護認定時を想定し、毎月のケア会議では日々の介護記録から見直しの必要性を検討している。また、状況が変化した際にはその都度見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録するようにしている。食事摂取、水分摂取、バイタルサインなど経過が分かるようにして、職員で確認出来るようにしている。記録からプランに繋がる内容を拾い出すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の状況に応じて受診、送迎等の対応を柔軟な支援をし、個々の満足が得られるようにしている。 (外部評価) 法人代表が医師として診療所を運営しており、医療的機能が充実している。日々の利用者の状態は診療所に伝え、医療面での見守りも行われている。利用者は定期的に受診しているほか往診も行われており、必要に応じて専門的な医療機関の紹介なども行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署による避難訓練や地元消防団視察をして頂き協力体制を得られた。また、ボランティアの訪問、小学校の児童の来訪などがあり協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の商店や鮮魚店から食材を入れて頂いたり、利用者の希望や体調に応じて訪問美容を利用している。ケアマネジャーとは、介護保険更新の際話し合い、支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 処遇困難時にはどのように対応するか確認して本人の支援に繋げている。	※	今後、権利擁護や成年後見制度を利用する方が増えてくると思われ協働して対応出来るようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が2週間に1回あり状況に応じて受診、往診にて対応している。歯科や皮膚科への医療機関とも適切な医療が受けられるようにしている。 (外部評価) 法人代表の運営する診療所が地域医療に力を入れており、ほとんどの利用者は法人代表の診療所をかかりつけ医としている。また、診療所を核として医療のネットワークがあり、専門性の高い医療についてはかかりつけ医が適切な機関の紹介を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医との連携を密にとり適切な治療が出来るようにしている。必要時には専門医に相談するようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 診療所の看護師へ様子や変化を報告をすると共に適切な助言を頂いている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 日常生活の様子や経過を情報提供し治療計画の参考にして頂いている。退院時にはサマリーをもらい情報を交換している		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期に関する指針を定め契約時に説明を行うようにしている。状態の変化がある毎に家族や本人の希望に応じて対応している。 (外部評価) 法人の医療的バックアップでターミナルケアを実践している。管理者は、実践から、家族等の協力は必須との実感があり、家族等との話し合いも行っている。利用者の状況把握にはホームと家族側で開きがあるため、共通認識を持つことが話し合いのポイントの一つであると捉えて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族の意向を踏まえ、安心した最期を迎えられるようその都度確認しながら取り組んでいる。出来る事、できない事を見極め主治医と連携をとりながら変化に備えて検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人のADLや状態の情報や関係書類を作成し新しい住まいでも継続して生活出来るようにしている。		本人・家族が環境が変わる事への不安を最小限にする為移り済む前に見学を行った。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報漏洩防止について契約書を交わしプライバシーの保護を徹底している。さり気ない声かけや対応に注意して羞恥心に配慮している。 (外部評価) 認知症のすすんだ利用者への関わりも、すぐ否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声かけを行っている。ただ、排泄時にドアを閉めると恐怖を感じる利用者への対応には、さらなる配慮が求められる。	※	地域に配布する写真や氏名などは取り扱いに注意し掲載しないようにしている。 ドアの前に設えたカーテンによりプライバシーは保たれるが、状況によっては活用されていない場合があるため、徹底を望みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 声かけには本人のペースに合わせた対応をして、意思表示が困難な方には表情や筆談、ジェスチャーで対応して読み取っている。又、無理強いせず提案をして選べるように場面作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れのめどはあるが個々の体調やペースに合わせて配慮しながら対応している。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールは決められているが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先して支援している。身体介護度の高い利用者が多くなり、職員のスケジュールは厳しくなっているが、笑顔で待つという姿勢は崩さないよう支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出張美容を利用しカットを行うようにしている。着替えなどさり気ない声掛けや見守りを行い清潔に心がけている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に準備や片付けをしている。食事中は職員が側に付き補助、サポートしてゆっくり会話をしながら楽しむようにしている。 (外部評価) 食事介助が必要な利用者が多くなっており、職員は一对一での関わりが中心となっているが、職員は多くの利用者に向けて声をかけ、食事が楽しくなるような雰囲気作りに努めている。自分で食べることも楽しみであるとの考えから、職員は極力手を出さず、気長に待つ支援を行っている。		献立は季節に合わせて食材を選んだり誕生日には好みの物を計画して献立をたてている。 利用者の高齢化が進み調理をする方がおられないが、出来る事(軽い下ごしらえ)はして頂いている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの嗜好を理解しており様子や体調をみて対応している。買い物で好きな物や食べたい物を購入して楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) リハビリパンツやパットを使用している利用者にも時間や習慣排泄パターンを把握して排泄出来るようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) いつでも入浴出来るように希望に合わせた支援をしている。入浴を拒む方には対応や声掛けの工夫をして入浴出来るようにしている。 (外部評価) 入浴の時間帯は午後からとなっており、その中で順番などを利用者の希望にある程度添うようにしているが、集団生活であることから難しい面もある。その場合は足浴や清拭、シャワー欲等、利用者との話し合いで解決を図るようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を増やして安眠出来るようにしている。寝付けない場合には暖かい飲み物を飲んで頂いたりするなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 得意な事は一人ひとりの力を発揮して役割をして頂いている 感謝の声掛けをして自信ややる気に繋げている。 (外部評価) 利用者の出来ること、難しいこと、介助すれば可能なこと等を職員間で話し合い、その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みを行っている。利用者が役割を達成すると感謝の声かけを行うことを重視しており、役割がやりがいになるような支援に努めている。		利用者が作成した物を来訪者にあげるなどして本人も喜び自信に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様よりお金を預かり管理しているが買い物などの時は手渡して自分で支払いをして頂くなど工夫している。		お金を預かる際には預かり書を作成しお渡ししている。使用した場合には出納帳に記入し家族様に確認、又、コピーを送付している。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的な外出が困難になってきているが気分転換が図れるように外気に触れるようにしている。家族様の協力のもと外泊するなど対応している。 (外部評価) 車いすを利用する方が多くなり、気軽に散歩することが難しい状況にあるが、管理者や職員は外出することの意義をよく理解している。近隣への散歩、ビルの屋上や庭先に出るなど、少しでも外気に当たることができるよう工夫している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 季節感を味わえるような場所や身近なところでのイベントに参加、外出出来るようにしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や葉書を出せるように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族様はもちろん気軽に来訪出来るように雰囲気作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアに取り組む職員間で共有している。		今後も身体拘束や虐待について理解出来るようにしていきたい
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外出しそうな様子を察知すればさりげなく声を掛け対応している。安全面に注意をして一緒についていくなど配慮している。 (外部評価) 職員の見守りが基本のケアを実践しており、玄関入口は夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は利用者の様子や言動が把握出来るようすぐ対応出来る側で記録を行うようにしている。日中、夜間も定期的に巡回するなど利用者の状態に合わせて安全に対応するようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて対応し保管すべき物は管理するよにしている。利用者が使用する場合は注意を促し見守り、一緒にするなどケースに応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) インシデント報告書に記録し職員で共有している。万が一事故が発生した場合には速やかに報告書を作成し報告すると共に原因や今後の予防対策について検討し家族へ報告説明を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し対応出来るようにしている。消防署の協力を得て救急蘇生技術の研修を実施しすべての職員が対応出来るようにしている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 月一回の防災ミーティングを開いて災害時に対応出来るようにしている。消防署の協力を得て、年2回の夜間、日中を想定しての避難訓練を実施している。 (外部評価) 5階建ての建物の3階と5階にホームがあるため、緊急避難などについては、消防所との話し合いが密に行われており、連携が取れている。居室の名札の下に、緊急時に第三者にも介助方法や脱出を促したかどうかを確認できる札（「名前と移動手段」裏に「確認済み」と書いた札）を下げている。		地元消防団の協力が得られ、ホーム内の視察をして頂き緊急連絡網に掲載して対応出来るようになった。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 本人の望む生活が出来るように家族様に説明理解が得られるようにしている。起こりうるリスクについて対策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルサインのチェックを行い体調の変化、異変の発見に努めている。異変時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。又、診療所から連絡が入り状態の報告を行い情報を共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医や看護師と連携をとりながら説明を受けている。薬については説明書がありミーティングの際に説明し把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝食前の冷水補給やバナナ、牛乳などを取り入れて予防に取り組んでいる。食事のバランスや適度な運動を行い予防、対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き、義歯洗浄の声掛けを行い自力で出来ない方には介助して清潔保持に努めている。口臭がある方にはうがい薬を使用している。義歯洗浄剤を週3回行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に合わせて食事や水分摂取状況をチェックして記録し職員で共有している。摂取量が少ない場合には、主治医の指示で栄養補助食品で補うようにしている。 (外部評価) 概略のカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入し、見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 利用者、職員全員インフルエンザの予防接種を行っている。職員の体調変化時は速やかに受診をすると共に診断書の提出を行い休みの調整を行っている。日頃から手洗い、うがいの励行を行い体調を整えるよう徹底している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は新鮮な物を届けて頂いている。冷蔵庫の中の物は鮮度を保ち早めに使用している。食器類はその都度洗浄しふきんや台ふきんなどは漂白して食中毒予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入り口付近には、プランターを置いて生花を植えたり生けたりしている。玄関には生花を飾り、手作りの表札を掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の生花や馴染みの音楽をかけるなど工夫している。天窓からの採光があり明るく、自然の風が入るようにしている。 (外部評価) 共用空間にはいす式のダイニングと畳敷きのリビングがあり、生活のシーンでうまく使い分けている。コンパクトであるが、風通しや採光にも配慮がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアにソファを置いたり、畳のスペースがあり利用者同士がくつろげる空間を作っている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使用しているダンスや、鏡台を置いたり、趣味の物や家族の写真を飾るなど居心地良く過ごせるようにしている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 適時に窓を開け、換気を行い自然の風を取り入れている。温度調節には十分に注意を払っている。汚物は速やかに処分し換気扇や、消臭剤を使用して悪臭が出ないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者に合わせ、手すりや段差の無いフロアになっている。内部を活かして安全な環境作りをして自立出来るように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりに関わり、本人の出来る力や、何が混乱を招いているか話し合い、見直したり環境整備をして力を取り戻せるようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 鉢やプランターを利用し楽しめるようにしている。		建物上ベランダが無くすぐ前は交通量の多い道路である為困難な事もあるが出来るスペースで少しでも土いじりなどが出来るようにしている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	意思表示が困難な利用者がおられ意向を聞くことが出来ない場合もあるが表情や言動を読み取ったり家族様の意向を聞くようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	一緒にお茶を飲んだり会話をする時間を持つように心がけている。介護に要する時間が多くなりゆっくりする時間が取れないこともあるが工夫して対応するようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	居室で休んだりフロアでテレビを見たり一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声掛けや対応で表情を読みとり言動で変化を得られるように支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	買い物や外出の計画をたて外出出来るようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日、バイタルサインのチェックを行い健康管理を行い体調の変化を主治医に報告して指示を仰ぐようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者、個々の状態把握に努め一人ひとりにあった支援を行い安心して暮らせるように努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族様の面会の際には様子や状態の報告をすると共に要望などを聞きようにしている。又、行事にも参加して頂ける様にしてコミュニケーション取り信頼関係が保てるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	運営推進会議の構成員と一緒に茶会をするなど交流はしているが馴染みの人が訪ねて来る事が少ない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通して協力をして頂く様になり浸透してきたと思う。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりやりがいをもち生き活きと仕事をしている。資格取得に向けて取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一緒に過ごす事で笑顔は多く見られているが表現できない方もおられ個人差はあると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族様の要望や意向をお聞きしており理解して頂いていると思う。随時希望など対応させて頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・日々の様子を撮ったものを新聞にして地域に回覧して頂いている。
- ・利用者の残存能力を活かし体操や運動を取入れている。
- ・勉強会、防災ミーティングを行いスキル向上や知識を身につけている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム銀河

(ユニット名)

3階

記入者(管理者)

氏名

田渕正子

評価完了日

平成 20 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) グループホーム銀河全体で理念を作りその人らしく暮らせるよう取組んでいる。 (外部評価) 地域密着型サービスに移行した際に、理念の基本のひとつに「地域」を置いている。地域という言葉には、利用者が地域住民として日常生活を送れるように支援する気持ちが込められており、ホーム全体で考えた理念となっている。		フローアでの理念を作り取組んでいる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	(自己評価) 大切な事を日々話し合い理念に向けて取組んでいる。理念がわかるようにフローアに掲示している。 (外部評価) 理念をユニット毎に概念化した言葉を掲げている。「今を生きる、一人ひとりを大切に」「明るく楽しくのんびりとした家庭生活」など、利用者の個性や状態に合わせた目標を立て、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で報告している。 新聞を作り回覧して地域の方々にも見て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 回覧板を廻して頂き行事などに参加している。散歩時に回覧板を持っていくようにして出会った方に挨拶などしている。	※	日常的な付き合いが出来るようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭り、草刈など地域の行事に参加して交流を図っている。 (外部評価) ホームの近隣には住宅地が少ないため、地域住民との日常的なつきあいは難しいが、地区会長や民生委員を通して自治会活動への参加をはじめている。地区清掃への参加など、職員主導で利用者が地域との付き合いを始めるための土壌ならしを行っている段階であり、日常的なつきあいがあるとまでは言えない。	※	地域活動にもっと参加したい老人会の方と顔見知りになりたい。 管理者や職員の働きかけにより、利用者と地域が結びつき始めている段階であるので、ホームにある専門的知識を地域へ提供するなど、地域に貢献する時間を多くする必要がある。そのためには管理者を専任とするなど、地域に向く時間を作ることが望まれる。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 会社全体でヘルパー習を開催しておりヘルパー2級資格取得に取り組んでいる。	※	地域の方々に来て頂き認知症の勉強会が出来るようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の意義を理解し職員と話し合い改善出来るところは改善してよりよい生活のために取り組んでいる。一階の外に洗濯干し場を作った。 (外部評価) ホームの評価を行うのは今回で5回目、管理者も職員も評価の実施には回数を重ねており、意義をよく理解している。管理者に聞いても職員に聞いても異口同音でその意義を説明でき、ホーム全体で取り組んでいることがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の内容を記録し職員で理解して、意見はサービス向上にいかしている。 (外部評価) 運営推進会議を地域との交流を深める場としてうまく活用している。地区長や民生委員の出席を促し、地域に開かれたホームづくりに努めている。また、市担当者の参加も毎回あり、客観的な視野を利用者のサービスに取り入れることにも取り組んでいる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市主催のサービス担当者会議に出席したり相談に行ったり行き来するよう努めている。 (外部評価) 市主催のサービス担当者会議が定期的に開かれており、運営推進会議以外でも情報交換が行われている。また、介護相談員の受け入れも行われており、行政と共にサービスの向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加したり、勉強会を開いて学んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待がみすごされる事が無いよう職員全員で注意し防止につとめている。 研修会や勉強会を行い周知している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分に説明を行い同意を得ている。 事前に訪問や見学を行い理解、納得を図っている。	※	事前にホームに来ていただく回数を増やしたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置して意見を入れてもらえるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的に郵送して報告している。 又、その都度報告している。 (外部評価) 管理者は、家族への報告は来訪時に行うよう心がけているが、来訪の少ない家族等には手紙やホーム便りを定期的に送付している。家族等に電話連絡する際も、できるだけ利用者の日常を伝えるようにしており、丁寧な報告がなされている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に話を聞いている。 出来ることは、要望に応じて対応している。 (外部評価) 家族等の苦情を受け付ける窓口や意見箱などを設置しており、また管理者やホーム長も積極的に声をかけ、意見等を言いやすいよう配慮している。利用者の生活の質向上には家族の協力が不可欠との認識があり、家族等からの意見を傾聴することに努めている。		家族会で話し合っていたり機会を作り色々な意見を出して頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のカンファレンスで報告したりその都度意見や提案を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 緊急時や状況に合わせて対応出来るように話し合い調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や退職により変る場合は利用者に不安を与えないように配慮している。又、家族、職員にも説明している。 (外部評価) 同法人は複数のホームを運営しており、ホーム間での職員異動がある。職員の状況によりユニット間での異動もあるので、離職者は少ないが職員の入れ替わりが多い状況にある。	※	ホーム運営上の事情等もあり異動をなくすことは難しいと思われるが、法人内のホーム毎に職員の雇用を固定することで利用者との馴染みの関係が構築され、落ち着いた生活の提供が可能と思われるので、検討を望みたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や勉強会に参加出来るように機会を設けスキル向上に努めている。 (外部評価) 利用者へのサービスの向上には職員のスキルアップは不可欠と捉え、法人内での研修が定期的に行われ、また外部研修にも参加を促している。常勤職員と非常勤職員とで研修受講に差があり、職員全体の質の向上に努めているとまでは言えない。	※	自分の行きたい、又、勉強したい研修がわかるようにパンフレットを準備している。 利用者にとっては職員の質がそのまま生活の質にも関係するので、常勤・非常勤等の勤務体制に関係なく全体の質の向上のための研修受講の仕組みを整えることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市の研修会や協会の勉強会に参加して情報をして交流を図っている。 (外部評価) 研修会で知り合った他のホームの管理者と互いの運営推進会議に出席し合うなどして意見交換を行い、また地域の他施設と相互訪問も行われている。ただ、管理者レベルの交流が中心となっており、ネットワークができているとまでは言えない。	※	他施設の相互訪問は本年度から始まった事業であるため、管理者レベルの交流に留まっているが、今後は職員の相互訪問・研修なども企画し、ホーム全体の質が向上できるように取り組みを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社全体の忘年会があり息抜き出来るようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 報告、連絡などを行い各自がやりがいを持ち働けるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 安心して利用出来るようコミュニケーションをとって希望を聞くようにしている。		本人に聞けない場合には親族、家族より聞いている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族が必要としている事を傾聴し対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族と本人に十分に説明を行い事前に見学をしたり訪問するなどして対応している。 (外部評価) 管理者は、利用者がホームに馴染むためには、日常生活の延長が重要と考えており、生活歴や生活状況等の必要な情報収集のために自宅や施設、病院等に出向き、確認を行っている。家族や関係者の意見も集約し、職員間で共通できるように取り組み、利用者が早くホッとできる生活を提供できるような支援に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) かかわり委員会を作り利用者の方と関わる時間を増やしている。 (外部評価) 職員から聞いた、「表現が厳しくなっている利用者でも、職員の関わり如何で表情が変わる。利用者が笑顔になると、自分が認めてもらっていることを実感し、仕事にやりがいを感じる」との話には、利用者職員とが相互に支えあう関係が築かれていることがうかがえる。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いや希望を取り入れて支えていく関係を築いている		ホームの行事に家族の方が参加出来るよう、又利用者が家族様と逢える機会が増えるように常に声掛けをして行事に参加、外出、面会が途切れないようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 正月、お盆、連休ど家族の方に声掛けをして自宅で過ごせるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 誕生日外出を行っており昔住んでいた場所に行き喜んで頂いている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 孤立しないよう見守りや関わりをもち支え合えるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 死亡されて契約が終了することがあり継続的な関わりは少ない	※	今後、対象者があれば継続できるよう工夫したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望をきいてレクリエーションや日常の活動を行っている。外出を希望する方が多いので少しの時間でも外出している。 (外部評価) 利用者の自己決定力が低下した場合は、生活歴等を活用して思いや意向を押し量っている。管理者や職員は長時間一緒に生活しているため生活歴は把握しているが、把握した情報については初回のアセスメント時以外の記録が少なく、職員の記憶が中心となっている。	※	ケア会議や引き継ぎ時には聞き取った生活歴の話し合いを行い、職員間での共有化は図られているが、利用者のケアの質を高めるには重要な財産となり、また記録を読み返すことで利用者の新たな側面を発見することも期待できるため、記録を蓄積していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時など家族の方などに聞いて把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の出来ること、できない事を把握している。また、往診時には、心身状態について医師に相談している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを毎月行い計画を立てている。家族の思いも聞いてケアプランを立てている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が介護計画の素案を計画作成担当者と共に作り、職員全員参加のケア会議でまとめている。家族等や関係者にも相談しており、多角的な視点での計画になるよう取り組んでいる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 体調が変わった時、その状態にあわせてプランを立てている。必要時には、受診して医師の意見、診断を参考にしている。家族の意見も参考にしている。 (外部評価) 介護計画の見直しは二段階になっており、大きな区切りとして介護認定時を想定し、毎月のケア会議では日々の介護記録から見直しの必要性を検討している。また、状況が変化した際にはその都度見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録しており介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人の状況に応じて往診、通院介助など満足が得られるよう支援している。 (外部評価) 法人代表が医師として診療所を運営しており、医療的機能が充実している。日々の利用者の状態は診療所に伝え、医療面での見守りも行われている。利用者は定期的を受診しているほか往診も行われており、必要に応じて専門的な医療機関の紹介なども行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員の方には、運営推進会議に出席して頂いている。		野田地区または大洲市の方に外出時ボランティアをして頂けるかたを求めたい
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や体調に合わせて訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 市のサービス担当者会があり参加して情報を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 状況に応じて受診したり往診したり複数の医療関係とも連携をしている。 (外部評価) 法人代表の運営する診療所が地域医療に力を入れており、ほとんどの利用者は法人代表の診療所をかかりつけ医としている。また、診療所を核として医療のネットワークがあり、専門性の高い医療についてはかかりつけ医が適切な機関の紹介を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 設立者が主治医でありいつでも指示を仰ぐことが出来る。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 診療所の看護師に相談報告をしており適切な助言を頂いている。又、施設長が看護師であり相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には情報交換している。またお見舞いに行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期に関する指針を契約時説明している。状態の変化があればその都度対応し、家族にも連絡している。 (外部評価) 法人の医療的バックアップでターミナルケアを実践している。管理者は、実践から、家族等の協力は必須との実感があり、家族等との話し合いも行っている。利用者の状況把握にはホームと家族側で開きがあるため、共通認識を持つことが話し合いのポイントの一つであると捉えて取り組んでいる。		家族の方と共にお見送り出来るようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族の意向を聞いて職員一同が検討や準備をおこなっている。家族様への声掛け、医師の指示などチームで行い支援している。		週末期、夜勤職員の不安が少しでも軽くなるようにしていきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供をして家族、本人が不安にならないように話し合いを充分にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報など大切な事は、同意や契約書をかわして取り扱いに留意している。 (外部評価) 認知症のすすんだ利用者への関わりも、すぐ否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声かけを行っている。ただ、排泄時にドアを閉めると恐怖を感じる利用者への対応には、さらなる配慮が求められる。	※	本人が出す様子や言葉など注意して介護している。 ドアの前に設えたカーテンによりプライバシーは保たれるが、状況によっては活用されていない場合があるため、徹底を望みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で利用者のことを代弁している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の日課はあるがその人の体調に合わせて支援している。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールは決められているが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先して支援している。身体介護度の高い利用者が多くなり、職員のスケジュールは厳しくなってきたが、笑顔で待つという姿勢は崩さないよう支援に努めている。		中庭にでる機会を増やして気分転換をし、下肢筋力をつけるよう散歩したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 2ヶ月に一度程度、出張理美容を利用している。又、個人的に美容室に行かれる方もおられる。洋服は季節に合った物をきてもらっている。		家族の方の希望にて毎日違う洋服を着ている方もおられる。着る洋服が同じ物ではなくいろいろ着るよう自分で選んでもらいたいよう支援する。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に準備や片付けをしている。個人の好みを把握して、副食にの気をつけている。 (外部評価) 食事介助が必要な利用者が多くなっており、職員は一对一の関わりが中心となっているが、職員は多くの利用者に声をかけ、食事が楽しくなるような雰囲気作りに努めている。自分で食べることも楽しみであるとの考えから、職員は極力手を出さず、気長に待つ支援を行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつは手作りの物を作り飲み物にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握して声掛けをしてトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、希望にあわせて対応するようにしている。 (外部評価) 入浴の時間帯は午後からとなっており、その中で順番などを利用者の希望にある程度添うようにしているが、集団生活であることから難しい面もある。その場合は足浴や清拭、シャワー欲等、利用者との話し合いで解決を図るようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠や休息は自由に出来るようになっている。体調をみて声掛けをして休んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った役割が出来るよう支援し支援の仕方少ずつ変っていくようにしています。 (外部評価) 利用者の出来ること、難しいこと、介助すれば可能なこと等を職員間で話し合い、その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みを行っている。利用者が役割を達成すると感謝の声かけを行うことを重視しており、役割がやりがいになるような支援に努めている。		外出をして気晴らししていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持って頂くことの大切さは理解しているが、現在は所持の希望をされる方がいない。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物など一緒におこなっている。洗濯物を干したり取り込んだり少しの時間でも過ごせるようにしている。 (外部評価) 車いすを利用する方が多くなり、気軽に散歩することが難しい状況にあるが、管理者や職員は外出することの意義をよく理解している。近隣への散歩、ビルの屋上や庭先に出るなど、少しでも外気に当たることができるよう工夫している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 連休、お盆、正月など家族に声を掛け外泊、外出を行ってもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 暑中見舞いや年賀状を出してやり取りしている。電話の取次ぎをしてコミュニケーションをとっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問して頂いた方には居室にてゆっくりと過ごして頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束しないように取組んでいる。		やむを得ず必要な場合には家族に説明し同意を得ている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵を掛けない支援をしている。 (外部評価) 職員の見守りが基本のケアを実践しており、玄関入口は夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者の様子を把握し安全に過ごせるよう見守りをしている		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットを用いてその都度記入し事故防止に取り組みケアカンファレンスでも話合っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力のもと応急手当や初期対応の訓練を受けている		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地元も消防団の方にホームに来ていただき協力をお願いしている。 (外部評価) 5階建ての建物の3階と5階にホームがあるため、緊急避難などについては、消防所との話し合いが密に行われており、連携が取れている。居室の名札の下に、緊急時に第三者にも介助方法や脱出を促したかどうかを確認できる札(「名前と移動手段」裏に「確認済み」と書いた札)を下げている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクに対しての説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調に変化があった場合バイタルチェックをし施設長、主治医に連絡し往診に来て頂いている。又、その結果をかぞくに報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の説明を受け確認しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取や毎日の運動を取り入れている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声掛けをしておりに必要に応じて誘導、介助をしている。 週2回義歯洗浄剤を使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあつた食事量を考え対応している。摂取量を記入している。 (外部評価) 概略のカロリー把握を行い、栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者の状態によっては刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入し、見守っている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成している。毎年インフルエンザ予防接種を行い感染防止に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は新鮮なものを届けて頂いている。使用期限に注意し管理している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を植えて季節感が味わえるようにしている。		花の種類を多くして近隣の方に見ていただけるようにしたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに壁画を作っている (外部評価) 共用空間にはいす式のダイニングと畳敷きのリビングがあり、生活のシーンでうまく使い分けている。コンパクトであるが、風通しや採光にも配慮がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファがあり自由に過ごすことが出来る。畳スペースは洗濯物をたたむなど使用している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様の協力により馴染みの物を持参して頂いている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 常に換気扇をつけて空気の入れかえも行っている。 温度調節は状況に応じて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フローには手すりが付いており安全に生活できるようになっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一緒にする事で混乱のないように自立して暮らせるように支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) プランターの水やりを行い外の空気に触れている、。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	顔色やしぐさ、話をしているとよくわかる
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	家事、介護を行う中でゆったりと過ごす場面はなかなか作れない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活の中で常に声かけをそて楽しく暮らせるように支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけをしてお手伝いして頂いたり自分が出来ないことの一部介助を行う事でいきいきした表情がみられます。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自力歩行出来る方がほとんどおられず外出時車椅子が必要になり外出する事が難しい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康面では毎日バイタルチェック、水分摂取、排泄チェックを行っている。主治医による受診、往診を定期的に行っている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の顔色や態度を見て声かけしたり話相手になったりできない事への支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の方が来られたとき利用者の方の日頃の様子や要望を聞いている。また要望に応じて出来る事は職員一同で行っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに ④ ほとんどない	来られていない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地区の行事が回覧板を通じて分かり参加させて頂いている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑い声が聞こえ皆、楽しくいきいきと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何かすることによって笑顔がみられ嬉しそうにしておられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ホームに来られた時何か要望は無いか尋ねて出来ることはしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・診療所が近くにあり医療面での対応がすぐ出来る。
- ・職員のスキル向上に力を入れている。
- ・利用者の方との関わりを大切にしている。